

コットン・ファブリック・ライブラリー

Cotton Fabric Library

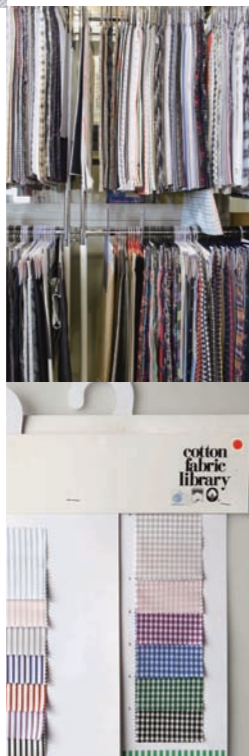
コットンの多様な世界を一望

繊維の間屋街として今も往時の面影を残す東京・馬喰町に、日本綿業振興会のオフィスがある。この一角に、1970年代以降集められた、コットン・ファブリックのアーカイブがある。所狭しと並んでいるのは、シーズンごとに集められたサンプル。毎年2,000点以上の新作が、産地の機屋やコンバーターなど約80社から送られている。過去1年分はハンガーサンプルとして、それ以前はスワッチ(10センチ角ほどの小見本)にして束ねて保管。薄手、厚手、無地、先染、プリントなど28に分類し整理している。取り扱うのは綿100パーセントから綿リッチまで。レース、デニム、ピロード、シャツ地、ラベット織や刺繍など、多様なコットンの世界を一望できる。

日本綿業振興会は、日本紡績協会、日本綿花協会など6団体によって1956年に設立さ

れた財団で、日本におけるコットンのプロモーションを一貫して担ってきた。コットン・ファブリック・ライブラリーも同様に、新しい創造性に繋ぐ役割として、資料の保管と情報公開を行っている。1990年代半ばより、JFW ジャパン・クリエーションに参加、選んだサンプルを展示している。そのため各社からは力を注いだ逸品が寄せられるのである。そのアーカイブは創造の最前線の集積であり、まさに宝庫。これを誰でも無料で見ることができ、実物に触れることもできる。「細番手の糸には、日本の紡績技術の高さが表れている」と室長の柳原美紗子は言う。時代は、後加工重視からシンプルが好まれる方向へ。クオリティは、目に見えない領域になっていると分析する。実物にいかにか数多く触れているか、その蓄積がますます重要になっている。

▲ボイルガーゼ、二重ドビー、先染ジャカードなどのスワッチ。各サンプルには品番とメーカー名が記されている。
Swatches of boil gauze, double dobby and yarn dyed jacquard. Each sample is labeled with the item number and manufacturer.



◀1年分のハンガーサンプルがぎっしり並べられている。
One year's worth of hangar samples packed tightly.

▼ギンガムチェックの色見本。
Color samples of gingham check.

▶レースのストックの一部。
古いレースの中には今ではもはや再現できないものもある。
A portion of the stock of lace. Some of the older samples cannot be replicated today.

コットン・ファブリック・ライブラリー

Cotton Fabric Library

103-0006 東京都中央区日本橋富沢町12-8昭和ビル5階
Showa Building 5F, 12-8 Nihonbashi Tomisawacho,
Chuo-ku, Tokyo 103-0006, Japan
Tel: 03-3665-3920 Fax: 03-3665-3922
<http://www.cotton.or.jp/aboutus.html>

